

大山町議会議長 野口俊明様

大山町議会議員 大杖正彦

平成25年大山町議会議員研修報告書

1	日 時	平成25年10月10日(木)～12日(金)	
2	研 修 地	滋賀県大津市 全国町村国際分化研究所	
3	研 修 内 容	(内 容)	
		(1)町村が抱える課題と町村議会議員の役割	(場 所) 滋賀県大津市
		(2)「写真のまち・ひがしかわ」のまちづくり	滋賀県大津市
		(3)地域力の創造と地方の再生	滋賀県大津市
4	研修結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(1)町村が抱える課題と町村議会議員の役割 講演者：筑波大学教授(人文社会学系) 岩崎美弥子氏 先ず、地方自治体は最も住民に近い行政であり、その重要性は高いという前置きから始まり、最後は政治家の資質について、マックス・ヴェーバー理論を紹介して行われた。講義内容は、自治体制度の沿革；明治4年、廃藩置県・府県管制が布かれ戸籍法が制定されたことから始まった。江戸時代は寺の檀家名簿が基本であったが居住地別にまとめられ、現在に至る。 自治体のその立場と役割を歴史から認識し、町村の求められることを明確にする。これからの議会は、国・県が決めたことをするだけでなく、その地域の理想・理念の具現化である。 これから、町村に求められることは、仕事場づくりである。それは企業誘致より地域の特長を活かした起業である → 一つの良い例は、太陽光、風力発電に代表される再生可能エネルギー事業、あれば便利なものより、無ければ困るものに注目する。議員としては、一人では何もできないが、議会は最高決定機関である、地域の価値を高め、人がここに暮らしてよかったと思える場所・空間を作る義務がある。 自治体が地域で果たさなければならない義務、そのために、議会、そして議員の役割について大いに参考となった。 政治家とは、情熱・責任感・判断力をバランスよく持ち、現実をあるがままに受け止める能力＝事物と人間に対し、距離を置いて見ることが肝要、「距離を失う」事は政治家の大きな大罪である。</p> <p>(2)「写真のまち・ひがしかわ」のまちづくり 講演者：北海道東川町 松岡市郎町長 北海道東川町は、来る10月15日～17日、大山町議会が行政視察で訪問する町です。町長の大変ユニークな発想がとても印象的であった。 ①これからの北海道は秋そして厳しい冬を迎え、夜が長くなる→とてもいい季節だ、なぜならば、夢を見る時間が長くなる、と捉えている。 ②東川町には、3つの道が無い(国道が無い、鉄道が無い、上水道が無い)しかし</p>	

<p>4</p>	<p>研修結果 又は概要 (意見・感想)</p>	<p>未来に夢と希望のという道がある、それは北海道。 雪は天から送られた手紙;雪はエネルギー豊かな水になり、田畑、海を潤す、</p> <p>③写真の町として、写真甲子園を開催、</p> <p>④国際交流;不調だった介護師養成専門学校に留学生を受入れ、「タイ」から毎年100人の派遣留学生決定。</p> <p>⑤道の駅開業、大山町に習い「Mont-Bell」ショップオープン。</p> <p>⑥農村らしさを打ち出した宅地造成。</p> <p>⑦旭川大学とのCollaboration;日本人が戦後忘れたもの、農業の大切さを教える事業展開。</p> <p>以上、町長の独創的な発想から、執行部が一体となってすすむ姿に感銘を受けた。何事にも、Positiveに、固定概念をChangeし、Chance活かし、Challengeする。</p> <p>①前例のない(前例主義を廃してチャレンジ)、先人は全て一からスタート。</p> <p>②他の町にない(比較主義)、他にないから価値がある。</p> <p>③予算がない(予算主義)、みんなで創意工夫を。</p> <p>駄目で元々、「動く」と「出会い」があり、新しいものが生まれるという、前向きな考え方が印象的だった。</p> <hr/> <p>(3)地域力の創造と地方の再生</p> <p>講演者: 前総務省自治財政局長 椎川 忍 氏</p> <p>椎川氏は、島根県総務部長経験あり、大山中海観光推進機構理事(大山王国)の立上げ・推進に尽力されている。</p> <p>今の日本は、大きな転換期にある。30年、50年後の文明を見据えた国・地域づくりを。</p> <p>江戸時代の良き仕組みをみると、幕府は税を取り上げるだけ、地方は自ら知恵を出し、特産物生産・販売、人材育成等、地方独自の方法で自立した歴史がある。美しい日本を取り戻し、世界へ。ガソリンは160円/L、水は100円/0.5Lとはるかに高い</p> <p>50年後は、水が世界を席卷する可能性がある。水は美しい山林を保ち、田畑を潤し、海へ達し、海草・魚介類を育てます。</p> <p>太陽光発電(売電価格42円)は企業のチャンス地方にしかない豊かな自然を活用。地方自治体のスタッフは都市論理の「分業型」ではなく、「オールラウンド型」いわゆる何でもこなせる「百姓型」になり、地域経営の中心となる公務員であるべき。</p> <p>(まとめ)</p> <p>今回の研修では、松岡東川町長、椎川氏が、ともに大山町の話題を引用され、全国から集まった町村会議員の皆さんへ大きなアピールとなった事もあり、大変有意義な議員研修であった。</p>
----------	----------------------------------	--